

必ず大会案内冊子をご確認のうえ作成してください。

① 演題名 (全角 40 字以内)

例：A 県 B 介護施設における…考察

開設 5 年を経過した認知症予防に重きをおいた通所リハビリテーションの傾向と実状

全角 40 字以内

② サブタイトル (全角 30 字以内)

例：C 氏への対応をとおして

平成 20 年 8 月～平成 24 年 10 月の実状を通して

全角 30 以内

③ 発表者・共同研究者名 (10 名以内)

例：認知太郎 1), 認知花子 2)

村田智恵¹⁾ 大谷章仁²⁾ 松本祥平²⁾ 植田浩次²⁾ 井畑浩敏²⁾ 西 幸宏²⁾ 宮島千鳥²⁾ 谷 正人²⁾ 伊東美緒³⁾

発表者等に肩書・職種・役職は入力不要

④ 発表者・共同研究者の所属先名称

例：

1) 社会福祉法人××会, 2) ××デイケア

1) ケアプランセンターわたなべ
2) 聖志会 渡辺病院
3) 東京都健康長寿医療センター

所属先名称に肩書・職種・役職は入力不要

⑤ 抄録の入力

文字数：改行なしで最大 748 文字

図表・写真：掲載不可

【注】

- ・ 倫理的配慮がなされている抄録であることを必ず記載してください。
- ・ 指定の文字数を超えた抄録は、大会抄録集に掲載することができません。
- ・ 文献を引用した場合、引用元を抄録に掲載してください。

【目的】当院は平成 20 年 8 月に前頭葉の活性化をめざす通所リハビリテーションを開設した。これまでに当学会で認知機能の変化や利用者の傾向について報告してきたが、今回はより効果のある対象について検証することにした。【対象と方法】対象は平成 20 年 8 月から平成 24 年 10 月までに、通所リハビリテーションに来所した 125 名。方法はカルテから個人情報を除く必要なデータのみを抽出した。【倫理的配慮】研究の趣旨および内容について当院の倫理委員会において承認を得た。個人が特定される情報はデータとして用いていない。【結果】125 名のうち有効回答が得られたのは 115 名であった (男性 38、女性 77)。平均年齢は 78.1(±6.5)歳、利用前の診察時の HDS-R の平均値は 19.4 であった。診察時の HDS-R の平均値をカットオフポイントとして、認知機能の低群・高群にわけ、通所リハビリテーションを受けながら HDS-R を 3 か月ごとに 1 年間測定できた低群 22 名、高群 24 名について二元配置分散分析を行ったところ、どちらもわずかずつ低下しており有意な差は認められなかった。6 か月間の HDS-R の得点が把握できた男性 14 名と女性 27 名で同様の分析を行ったところ、有意ではないものの 3 か月から 6 か月の間に男性では約 2 点低下していた。アルツハイマー病に限定して男女別に同様の分析を行ったところ (男性 14 名、女性 27 名)、初回から 3 か月にかけて有意に女性で HDS-R の得点が上昇し、男性ではわずかに低下していた (p < 0.01)。【考察】コントロール群を設定できないため、当リハビリテーションの有効性を検証することは難しいが、女性において有意に HDS-R の得点が上昇したことについては、女性のほうが積極的に参加し、男性は受け身であることが影響しているのではないかと考える。今後、積極的に取り組む男性が増える仕組みづくりを検討する必要がある。